



月報

5

缶詰問屋協会

(47, 5, 20 No.65 VOL.6)

◆目次◆

4月の行事一覧表	1
◇理事会	2
◇(第4回)缶詰表示問題連絡協議会	7
◇(第5回)缶詰表示問題連絡協議会	11
◇「'72缶詰フェア東京」第2回実行委員会	15
缶詰共同宣伝	
ベターリビングショーナゴヤ'72に参加	25
サンケイ缶詰料理教室	26
三宅島、八丈島におけるサンケイ缶詰料理教室	27
◇農産缶工組とのアスパラ缶懇談会	28
◇包装問題について	29
◇製造者の表示に関して厚生省に陳情	34
◇パインアップルかん詰日本農林規格の告示	36
関係団体報知	38
会員消息	41

全国缶詰問屋協会

Japan Canned Food Wholesalers Association

東京都中央区日本橋通3丁目8番地

八重洲通ビル7階

電話 東京 (273) 9278・9289番

4 月 の 行 事 一 覧 表

行 事	月 日	時 間	場 所	出 席
(第4回) 缶詰表示 問題連絡協議会	4月 4日	13.30~16.00時	製缶協会	全缶協メン バー 6名
(第1回) 缶詰フェ ア東京実行委員会	4月 5日	15.00~17.00時	日缶協	
全缶協・内販会会計 監査	4月 7日	11.30~13.00時	事 務 局	中山副会長 萩原監事 榊ヤマムロ 小委員5名
缶詰フェア東京お土 産係打合	4月14日	10.30~13.00時	事 務 局	
〔パインアップルかん詰の日本農林規格 告 示 47.4.15〕				
「進物用缶詰過大包 装」について打合会	4月18日	14.00~17.00時	日缶協	約15名
(第2回) 缶詰フェ ア東京実行委員会	4月21日	15.00~19.00時	日缶協	30名
(第5回) 缶詰表示 問題連絡協議会	4月24日	14.00~16.30時	日缶協	全缶協4名
理 事 会	4月25日	13.30~15.30時	ルビーホール	出席17名
農産缶工組とのアス バラ缶懇談会	4月26日	13.30~16.00時	日缶協	全缶協6名

5 月 の 行 事 予 定

定 時 総 会	5月18日	13.00~15.00時	ルビーホール	
---------	-------	--------------	--------	--

理 事 会

日 時 昭和47年4月25日

12.30～13.30時 (昼食)

13.30～15.30時 (会議)

場 所 鉄道会館 ルビーホール 12階 有明

TEL(211)5611番

(東京、大丸デパート)

〔通常理事会提出議案〕

議

- 案 1. パインアップル部会設置の件
2. 全缶協会員メンバーの日缶協賛助員退会および全缶協よりの賛助費支払いの件
3. そ の 他

〔定時総会提出議案〕

1. 昭和46年度事業報告に関する件
2. 昭和46年度決算報告に関する件
- (イ) 収支決算書
- (ロ) 財産目録
- (ハ) 貸借対照表
3. 昭和47年度事業計画(案)承認の件
4. 昭和47年度会費賦課徴収方法の件
5. 定款一部変更の件
6. 昭和47年度収支予算(案)承認の件

7. 退会会員に関する件
8. 任期満了に伴う役員改選の件
9. 定時総会期日および場所決定の件
10. そ の 他

1. バインアップル部会の設置を決定

沖縄産のバインアップル缶詰は5月15日の沖縄本土復帰に伴い、従来のような輸出輸入の関係がなくなり、沖縄輸出バインアップル缶詰組合は工業組合に、沖縄バインアップル缶詰輸入協会はその指定問屋といったかたちとなるため、創立満5年を迎えた全国バインアップル缶詰内販会は輸入協会側の要請を受け入れ発展的に内販会を解散することになった。

しかし、マーケットの維持は従来にも増して重要な問題として提起されることは間違いなく全缶協はこの点を重視し、当面情報交換を主な目的としたバインアップル部会を全缶協に設置することになった。またこのバインアップル部会のみ特別に年間1社3万円を部会費として徴収する。バインアップル部会運営規定の主な事項は次の内容である。

(組 織)

第 1 条 会長は必要に応じ部会を設置し、会員の中からその部会員を委嘱する。

ただし、バインアップル部会にあっては、沖縄復帰に伴う全国バインアップル缶詰内販会の解散という特殊事情により内販会会員および顧問であったものでかつ全国缶詰問屋協会会員であるもののうちから委嘱されるものとする。

(加 入)

第 2 条 全国缶詰問屋協会の会員であって前条によらず部会員となることを希望するものは部会員2名以上の推せんを必要とし会長に届け出て、委嘱されたものに限る。

(部会費)

第 3 条 部会員は、毎年所定の部会費を納入しなければならない。

2 部会費の額および徴収方法は理事会の議決によって別に定める。

3 既納の部会費は、いかなる理由があってもこれを返還しないものとする。

(部会の事業・目的)

第 1 2 条 部会はパインアップル缶詰の市場価格および需給量の見通し、品質の向上のための対策、その他会長より付託された事項につき調査審議を遂げ、これを会長に報告するものとする。

その他の条項に関しては、他の部会の部会運営規定と同様である。

2. 全缶協会員メンバーの日缶協賛助員退会および全缶協よりの賛助費支払いについて

46年度において全缶協会員で、しかも日缶協賛助員になっているところは23社あり、いままでに1社1万円の賛助費を納入していたが、日缶協の経費も膨脹し、日缶協体質改善委員会で研究を行なった結果予算が不足であるため

会費値上げの方針がだされ、23社の間屋には1万円を一率3万円の値上げ要請が浅井会長にあった。しかし全缶協はこれを契機に今後は全缶協一本で日缶協賛助員となり、50万円を納めようという考えが固められた。従来、全缶協は10万円を賛助費として納入し一方日缶協から20万円の賛助会費を徴収していたが、この20万円は徴収せず、全缶協会員で日缶協賛助員の23社には若干の積み増しをお願いし、この23社の合計355,000円に全缶協から145,000円を加え50万円を全缶協一本で日缶協に納める。この23社には日缶協の発刊している「缶詰時報」「缶詰旬報」だけはいままでのように無料配布してもらおうがいずれも日缶協賛助員は全員退会する。

3. 定時総会提出諸議案について

定時総会提出議案

第1号議案 ～ 第9号議案まで

全員異議なく原案通り承認役員は全員留任の方針で総会に諮ることになった。

4. 定時総会期日および場所決定

定時総会は次のように開催することになった。

日	時	昭和47年5月18日	12:00～13:00時(昼食)
			13:00～15:00時(会議)
場	所	鉄道会館ルビーホール	12階

5. 農林省の一括表示について

一括表示に関して北田専務理事は、次のような報告および説明を行なった。

「一括表示，特に使用上の注意の文言について，スズを表示せよ，因果関係をはっきりさせよとの要請があり，業界で再三話し合いを行ない最後に農林，厚生両省も諒承をとりつけたうえで使用上の注意の統一文言が決まり，これにより業界は自主的に表示していくことになった。

この一括表示例はまだ決定というものではないが農林省の要望により業界で検討した結果，この程度の表示であれば後々問題はなかるうというものであらましの意志統一を図ったものである。

一 括 表 示 例

品 名	桜桃シラップづけ（糖度13%）
原材料名	桜桃、砂糖、ぶどうとう、酸味料、 合成着色料添加
固形量	190g
内容総量	312g
製造年月日	ふたに略号にて記載
販売者	東京都〇〇区〇〇町〇〇番地 〇〇商事株式会社
使用上の注意	カンをあけると，空気にふれて内面が酸化しますので，必ずガラスなどの容器に移しかえて下さい。

品 名	白ももシラップづけ
形 状	2つ割
原材料名	もも，砂糖，ぶどう糖，酸味料
固形量	250g
内容総量	425g

製造年月日 ふたに略号にて記載

販売者

使用上

の注意

品名 びわシラップづけ

形状 2つ割

原材料名 びわ，砂糖，酸味料

固形量 250g

内容総量 425g

製造年月日 ふたに略号にて記載

販売者

使用上

の注意

(第4回) 缶詰表示問題連絡協議会

日時 昭和47年4月4日 13.30～16.00

場所 日本製缶協会会議室

出席者 日本缶詰協会 隅野 勇氏

” ” 平野 孝三郎氏

明治製菓㈱ 小津 武一氏

日本果汁協会 渡辺 熊雄氏

全国缶詰問屋協会 北田 久雄氏

(株) サ ン ヨ 一 堂	多 田 義 朗 氏
(株) 明 治 屋	春 日 英 男 氏
国 分 (株)	安 田 銀 次 郎 氏
三 井 物 産 (株)	坂 下 長 作 氏
北 洋 商 事 (株)	飯 塚 嵩 氏
東 洋 製 缶 (株)	加 藤 久 典 氏
大 和 製 缶 (株)	山 田 英 雄 氏
北 海 製 缶 (株)	幅 樹 雄 氏
日 本 製 缶 協 会	山 崎 力 氏

☆ ☆

当番により、日本製缶協会 山崎専務理事が進行役をつとめ議事に入った。

1. 果実缶詰の使用上の注意について

去る3月23日の協議会後に日缶協が厚生省 浦田環境衛生局長と会っているので、その説明をすることになり、隅野専務理事から

(イ) 3月29日に、日缶協 西村副会長(隅野専務同行)が厚生省に浦田環境衛生局長を訪ね(山内技官 途中から おし淵食品衛生課長同席)3月22日の日缶協理事会ならびに関係団体の空気を伝え「錫………」を表示することは、消費者に必要以上の不安感を与えることを考慮していただきたい旨述べた。

(ロ) 翌30日、食品衛生課長は、業界が「錫………」と表示することをどうしてもさげたいのであれば、他の容器に移す理由、例えば、酸化するとか味が悪くなる、とかの文言を入れて欲しい。またその文言を統一することを希望していたので

(a) ふたをあけると 空気にふれて カンが酸化しますので 残ったときは ガラスなどの容器にすぐ移しかえて下さい。

(b) ふたを開けると 空気にふれて カンが酸化し味が悪くなりますので 残ったときは ガラスなどの容器に すぐ移しかえて下さい。

以上2案を メモにしておいてきた。なお、平野常務が農林省市川消費経済課長に厚生省との話合いの内容を報告した旨 説明があった。

次いで 上記2案の他に下記2案もあわせ 検討した。

(c) カンを開けると 空気にふれて ブリキが酸化しますので 残ったときは ガラスなどの容器にすぐ移しかえて下さい。

(d) カンを開けると 空気にふれて 内面が酸化し 味がおちますので 残ったときは ガラスなどの容器にすぐ移しかえて下さい。

その結果(d)案を修正した。

カンを開けると 空気にふれて 内面が酸化し 風味が おちますので 残ったときは 早めに他の容器に移しかえて下さい とすることで意見が一致した。

ここで 進行役の山崎氏より前回(3月23日)確認された事項 即ち 使用上の注意事項表示は果実缶詰のみを対象とすることを 日缶協 全缶協 連名で ブランドオーナーに手紙で通知することになっていたが その手紙が発送されたかどうか質問があり

日缶協 平野常務から未だ手紙が送られていない旨回答があった。改めて 使用上の注意表示は 本年度は 果実缶詰に限る旨 日缶協 全缶協連名で ブランドオーナーに手紙で 通知することを確認した。

2. 製造所・販売所の名称・所在地表示について

日缶協 隅野専務より 去る29日 西村日缶協副会長と共に 厚生省 浦田環境衛生局長に会ったとき 使用上の注意の件とともに 本件に関し

実施出来かねる旨を説明したところ 局長は「業界の事情は判ったが、いつ頃になれば実行出来るのか、どうしても実行出来ないのか、いずれにしても理由を附して、文書で提出して欲しい」とのことであった。

さらに 日缶協 平野常務から厚生省との話合いの空気から

(イ) 何団体もが連名で 文書を提出するのは 得策でないように思う。

(ロ) まず メモ的なもので 説明する 必要があればその後正式に文書で提出するとの二段構えがいよように思う

旨の発言があった。

日缶協が準備した文案につき 協議した結果次の点で意見が一致した。

(イ) 原案の一部を修正し 先づ 食品衛生課に 予め 文案を見せ協その上で 日缶協 全缶協 連名で提出する。

(ロ) 本日欠席し さきに陳情書に連名の意向を示した果汁農協連には 日缶協から2団体連名になったことを説明する。

また 果汁協会 渡辺専務から「製造所の名称 所在地表示に関し関係ないという理解でもないらしいが 当方には まだ話がない 今回の食品衛生法改正とは関係ないらしい 飲料は缶詰だけでなく すべての容器に影響あるので 飲料関係は今回の 日缶協 全缶協 連名の文書提出とは 切離して考えたい」旨発言あり。

(3) 次回は

ジャム J A S 改正案について

農林 厚生 公取 3官庁 規定の相違点について

を議題として 4月20日頃 日本缶詰協会で開催することに決まる

(4) 贈答品の過剰包装について

日缶協 平野常務から贈答品の過剰包装について

まず 神戸の消費者団体から のろし が上り東京地区にも波及して 消費者団体から 団体 会社に手紙がきている旨 その内容について説明があったが、正式議題としては 協議するには至らなかった

(第5回) 缶詰表示問題連絡協議会

- 日 時 昭和47年4月24日 14:00～16:30時
- 場 所 日本缶詰協会 会議室
- 議 題
1. 果実かん詰一括表示事項と各関係法規にもとづく表示基準の比較について
 2. 果実かん詰の一括表示方式(案)について
 3. パイン缶詰のJASおよび表示の問題点について
 4. なめたけびん詰の表示について
 5. そ の 他

〔出席〕 日缶協 ＝ 平野，渡辺， 製缶協 ＝ 山崎，外3名， 全缶協 ＝ 多田，外4名， 農産缶工組 ＝ 山内， 密相缶工組 ＝ 村上， 検査協会 ＝ 御小柴， 全清飲 ＝ 小川

☆

☆

JASの一括表示の進行につれて、それぞれの品目にわたり、公正競争規約との相違点がいくつか出てきているが、このほど、果実かん詰のJASと規約の比較表を作成し、注意しなければならない個所を検討した。
表示事項別にみた各品目の表示比較は次の通りである。

〔品名〕

J A S	規 約
規格による名称(みかん, 白もも, 洋なし, 和なし)	主要部分に示す。 食品の性質を表わす名称(ぶどう, なし品種名)漢字, ひらかな, カタカナ, いずれを用いてもよし, 但し 外来語は不可。

〔形状〕

品 目	J A S	規 約
み かん	丸みかんの旨	「ブロークン」
も も 洋 な し 和 な し	「2ツ割」 「4ツ割」 「スライス」	主要部分に示す 2ツ割 表示不要(全形の図柄の場合「2ツ割」) 「4ツ割」 「スライス」記号の説明で表示省略。「丸もも」又は「ホール」 「ピース(小切れ)」
り ん ご	輪切り, 4ツ割, 8ツ割の旨	「輪切り」又は「アップルリング(輪切り)」 「4ツ割」 「スライス」
び わ	2ツ割の旨	「2ツ割」又は「割びわ」
桜 桃		「枝付」 「梗付」
あ ん ず	全形の旨 皮付の旨	「丸あんず」 「2ツ割」 「皮つき」
パインアップル	「スライス(輪切り)」 「ハーフ(2ツ割)」 「チ	「スライス(輪切り)」 「ハーフ(2ツ割)」 「チビット(6ツ割)」 「ピース(小切れ)」

	ビット（扇状片） 「ピース（小切 れ）」	
--	----------------------------	--

〔原材料名〕

品 目	J A S	規 約
パインア ップル	「パインアップル」 「砂糖」 「ぶどう 糖」 「パインアッ プル果汁	
フルーツ みつ豆		多いものの順に 8 種類。それ以上は省略 できる。果実，赤えんどう，の配合割合
添 加 物		合成甘味料ほか 4 種類……〇〇添加。 漂白剤ほか 2 種類……〇〇使用 「合 成甘味料，着色料，糊料添加」

〔固形量（内容個数）〕

品 目	J A S	規 約
パインア ップル もも，洋 なし，和 なし	固形量の次に（ ） を付して内容個数 2 ツ割のサイズ マ ークの読み方	
焼りんご	内 容 個 数	内 容 個 数

〔製造年月日〕

品 目	J A S	規 約
パインアップル	具体的表示又は記号 (記号表示場所を記載する)	1) 記号 2) 輸入品は製造年月日不明の場合、製造年度を示して輸入年月日

〔原 産 国〕

品 目	J A S	規 約
パインアップル	輸 入 品	

〔製造者又は販売者〕

品 目	J A S	規 約
パインアップル	表示を行なう者の名称、住所(製造者又は販売者)	製造者又は販売者

〔使用上の注意〕

	J A S	規 約
	統一文面	
表示する文字の大きさ	8P活字以上の大きさの統一のとれたゴシック体	

なお、果実缶詰の一括表示方式(案)については、桜桃、びわ、白もも、あんず、などにつき その問題点となるところなどを話合った。

「'72 缶詰フェア—東京」

第2回 実行委員会

日 時 昭和47年4月21日 15.00～19.00時

場 所 日本缶詰協会 会 議 室

内 容 '72 缶詰フェア—東京実施に関する件

出 席 (○印は部会長)

〔総 務〕 実 行 委 員 長 中 山 良 助 氏

〔会場係〕 ○(株) 矢 口 屋 商 会 矢 田 四 郎 氏

日 魯 漁 業 (株) 鈴 木 基 之 氏

日 本 冷 蔵 (株) 西 松 克 明 氏

清 水 食 品 (株) 大 場 晴 雄 氏

日 本 缶 詰 協 会 隅 野 勇 氏

〃 納 富 則 夫 氏

〃 中 溝 穆 子 氏

〔催 物〕 ○日 本 水 産 (株) 大 内 光 氏

〃 中 山 立 二 氏

東 洋 製 缶 (株)

日 本 農 産 缶 詰 工 業 組 合 山 内 正 雄 氏

日 本 製 缶 協 会 山 崎 力 氏

〔観客動員〕 ○国 分 (株) 下 妻 俊 和 氏

三 井 物 産 (株) 坂 下 長 作 氏

清水水産(株)	溝川宮治氏
日本缶詰協会	
〔土産〕○大洋漁業(株)	紅床登喜男氏
明治製菓(株)	小津武一氏
〃	鈴木実氏
〃	島健二氏
関東缶詰食品(株)	吉田信一氏
〃	森田将夫氏
北洋商事(株)	野田喜久雄氏
全国缶詰問屋協会	北田久雄氏
〃	中沢和雄氏
〔即売〕○森永製菓(株)	三宅一吉氏
はごろも(株)	大滝利尚氏
(株)明治屋	春日英男氏
(株)サンヨ一堂	伸田光男氏
東京都食品卸同業会	小林忠治郎氏

※ (第2回) 実行委員会の概要

本実行委員会はさきに会場、催事、観客動員、土産、即売など各担当係ごとに小委員会が開かれ、それぞれに具体的実施計画がまとめられたのでその報告に基づき検討が進められた。各係の実施内容は次の通りである。

〔会場〕

4月18日関係委員参集、展示装飾業者広目屋の説明を聞き次の通り予算を決定。

1. 展示 小間

1こまにつき6,800円、70こま441,000円

バラベット，蛍光照明，社名板，台上白布，腰幕とも
ただし こま間の間仕切りはない

2. メーンテーマー装飾 100,000円

ディスプレイは電車中吊ポスターのデザインにあわせる

6m × 2.5m

3. 看板類

(1) 玄関渡し看板 1.2m × 6m 50,000円

(2) 会場内案内看板脚付 15本 22,500 "

(3) 会場案内図 1.2m × 0.9 7,000 "

(4) 即売コーナー飾付 2カ所(8こま分) 60,000 "

(5) 試食コーナー" 3カ所(9こま) 105,000 "

(6) 休憩所土産物渡所 20,000 "

4. 植木 15鉢 22,500 "

5. 付帯費 120,000 "

清掃，取付，撤去，材料，運搬，設計，デザイン料等

小計 948,000 "

バックミュージック及びマイク 20,000 "

会場使用料 82,000円 × 4日 328,000 "

" 時間外 8,200円 × 2日 16,400 "

合計 1,312,400 "

このほか椅子，テーブル借料1日1脚それぞれ 30円

灰皿，茶わん，やかん借料 無料

動力使用のときは引込電線工事 別途

会場使用申込みは24～25日までこまどり平面図，電熱使用個所などを示し
広目屋経由，都立産業会館へ提示のこと。

〔催 物〕

4月18日、昨年の実績をもとに基本事項の打合せを行ない、さらに4月20日計画を持ち寄り「広目屋」の出席も得て以下の内容を検討した。

○ パネル 100,000円

1) 缶詰のできるまで (日缶協所有)

2) 缶詰の5大特徴パネル

1) は農林省果樹課作成による「蜜柑の収穫から缶詰の製造工程まで」のパネルを動力により移動させる様式のものを使用する。

2) は缶詰が持つ5大特徴「便利、安い、栄養が高い、保存性、おいしい」というこの5つの特徴をパネルにして入口近くに掲げる。

○ 缶詰巻締め実演 150,000円

運 搬 費 100,000円

配 線 工 事 50,000円

昨年と同様5Mのシーマーを設置、貯金缶の巻締を行なう。

○ 映 画 70,000円

1) 缶詰共同宣伝CF映写

2) テレビ映画の借用上映

仕切りパネル 30,000円

フィルム代と技士 30,000円

そ の 他 10,000円

1) エンドレスカセットでこのPRだけでは面白くないので 2) のテレビ映画を借用し、上映したらどうかとの考えからフジテレビの現在放映中のミラーマン、快傑ライオン丸、赤胴鈴之助の3本を借りて上映する。側面をかべ、一方を黒いカーテンにして場所づくりする考えである。

○ 飲物サービス 180,000円

みかん、もものジュース無料サービス

ジュースー4台借用

缶詰 20箱	100,000円
砂糖氷	21,000円
紙コップ他備品	35,000円
アルバイト女子2名(2日)	16,000円
その他	8,000円

ことはみかんのほかに、ももを加えて、無料でサービスし、5/4各10%で良質のものを用意する。

アルバイトは1日1人2,000円、この試飲コーナーの担当会社は、日東食品製造㈱にお願いしている。

○ 缶詰料理実演試食 230,000円

- 品 目 (1) コーンスープ
(2) ツナサンドイッチ
(3) 肉製品を使った料理
(4) みかんを使ったデザート

経 費 主任1名 (2日)	20,000円
助手8名 (2日)	80,000円
副材料 (パン他)	50,000円
資 材 (紙皿他)	30,000円
雑 費 (器具代他)	38,000円
マネキン2名 (2日)	12,000円

料理を作る実演とそれを試食させるコーナーを設けたい。服部栄養学園にお願いし、出来れば終日続けて実演させ、いつでも試食できるようにしたい。同会場では電熱器しか使えないので午前中に(1)(2)、午後(3)(4)をやるようにしたい。材料は関係組合から無償提供してもらえ、確保出来ない場合は昨年同様ブランドオーナーから提供願ひ、提

供会社の名前を出すということにしたい。大体各4%手当すればよからう。

○ 相談コーナー	未	定
日缶協研究所機械設置		
缶詰打検実演		
○ 予備費	7	0,000円
合計	8	0,000円

〔観客動員〕

4月15日、関係委員参集して、下記の計画、予算を決定した。

ポスター4色刷 @30円	3,500枚	105,000円
内 700枚車内吊り	2,800枚	各案内先に貼付用
招待券 @1.70	40,000枚	68,000円
案内状	3,000枚	5,000円
中吊代 山手線 5/26~27	650枚	173,000円
デザイン料		10,000円
郵送料		40,000円
都内招待券配達費(小売店対象)		10,000円
日刊紙車代(3大紙, 業界紙)		20,000円
計		431,000円

都内小売店への招待券など配布は東京都食品卸同業会にお願いしたい。
 予算の面で昨年の倍近くになっているが、これはことし、車内吊広告を実施するためである。ポスターを掲示し、デザインについての説明があったが、これでよからうとの大方の意見であった。

入場は午前10時から午後5時までとし、その旨をはっきり招待券等に明示し、6時まで作業をすることにしたらよからうとの方針が出された。案内状は、

女子大，栄養学校，消費者団体，マスコミ関係，関係官庁，（都内小売店は，東京都食品卸同業会に依頼）オフィス街のB G対象に招待券を配布。車内中吊広告とも合セフリーの客が相当見込まれるのでアンケートを1日2,000名と限定して協力してくれた客には抽選により缶詰の景品を進呈する。このアンケートの配布などは動員係が行なうが，ただし抽選の担当はお土産係とする。

〔土産係〕

4月14日各委員が参集して次の計画および予算を決定した。

缶詰関係参加会社約40社（昨年実績）に2万円相当の缶詰を無償提供願う。缶型は5号缶以下，品種は任意，搬入は5/27（土） 展示品等と同特そのリストを5月20日までに全缶協宛に提出願う。

お土産，抽選の場所は出口とする。お土産は，4000名分用意する。

ガラポンは東急より5/26借用する。

項 目	予 算 額	備 考
袋 代	175,000	5,000枚 @35
リ ー ス 料	10,000	ガラポン 2台
包 装 紙 紐	10,000	
賞 品 缶 詰 代	100,000	1等 500円セット×200名
〃	80,000	2等 200円セット×400名
缶 詰 貯 金 缶	45,000	3,400名 @13
ア ル バ イ ト	25,000	抽選2名 袋詰3名 5名×2日@2,500
予 備 費	20,000	
合 計	465,000	

袋は期間的余裕がないためすでに発注したが、そのデザインは昨年同様とし副題として「EAT MORE かんづめ」とすることにし、昨年の「缶詰生れて100年」の文言と改めた。

アルバイト料の予算1人1日2,500円は昨年同額の2,000円程度におさえる。

昨年の反省で1人で数枚の招待券を持って来てお土産を要求されたのでことは1人1枚限りといったように招待券に印刷し、お土産は招待券持参者に限り渡し、抽選(ガラボン)はアンケート記入者全員にやらせる。

(即 売)

4月13日各委員参集して次の方針を話し合った。

即売の考え方は昨年即売してほしいとの声があり、ことはじめての実施であるがあくまでも入場者の便利のために実施するという主旨で検討した。

1) 即売商品について

即売商品は1社1品として展示会場に展示してある商品缶詰およびその関連商品とする。(缶切りとか)

即売希望社からその商品¥5,000位(生販価格にて)を寄贈してもらい、それを即売に出す。

2) 即売商品の選択

即売品目が重複しないようその選択は即売委員に任せてもらう。即売希望社は出品(即売)リスト、第1から第3希望位までを書いて提出してもらいたい。

3) 即売商品の売値

即売商品の売値は出品各社で指定明示してもらう。(標準小売価格の1割10円単位で切る。)

4) 売子について

マネキンを3名位使うことにした。マネキン1名1日¥3,000位で
なので2日間で¥2,0000位の予算。

この実施計画に対して1万円位にしなければ2日目は売り切れといった
事態も起り、この補充は大変となる。また逆に売れ残った時に出展会
社に戻すということも時間的に可能かどうか、また各コマで即売を実施
するということはコマの裏側に人が入れず代金のやりとりは無理であろ
う等の意見が出され結論は即売を実施するという方向でもう一度即売委
員会で再検討することになった。

☆ ☆ ☆

以上各委員会で出された予算を集計すると以下の金額となる。

	本 年 予 算	昨 年 実 績
本 部	3 0 0,0 0 0	2 5 4,3 2 7
会 場	1,3 1 2,4 0 0	1,8 7 7,7 9 6
催 物	8 0 0,0 0 0	5 5 4,0 2 5
観 客 動 員	4 3 1,0 0 0	2 0 2,2 8 2
土 産	4 6 5,0 0 0	5 1 7,0 8 8
即 売	2 0,0 0 0	
合 計	3,3 2 8,4 0 0	3,4 0 5,4 6 8

〔 ' 7 2 缶詰フェア—東京のテーマについて〕

第1案 (榊矢口屋商会より)

「あなたの缶詰、お台所からレジヤーマで」

第2案 ポスターの原案より

「きのう、きょう、あす、かんづめがひらく豊かな生活展」

第3案 風船、袋のデザインより

「EAT MORE かんづめ」

第4案 「健康と豊かさと缶詰」

なお昨年のテーマは

「伸びゆく缶詰、豊かな生活展」

であったがことしのテーマは第1案が身近な親しみがありそれにレジヤ－
ということは装飾する面で山か海のパネルを飾るという演出も出来、レジ
ヤ－を強調した感じのものがよかろうとの意見があり検討の結果次のテー
マを決定した。

「~~台所~~からレジヤ－まで！あなたの缶詰展」

このテーマは2行にするか又は字の大きさを変えて表現するのがよかろう
との意見であった。

〔総一アンケートについて〕

ことしの缶詰共同宣伝の総一アンケートを缶詰フェアでもとることになり、
この係を観客動員係が行ない受付でアンケート用紙を渡しそれをまとめて、共
同宣伝事務局に手渡す作業の責任を担当することになった。アンケートは1日
2,000枚とし合計4,000枚を用意する。記入は最低5分は必要なので休憩
所に記入場所を用意し、記入例を掲示する。また説明する係員の配置も必要で
あろうとの発言があった。

〔参加店の再度呼び掛け〕

実行委員会社からまだ申込みの来ていない各社に対して再度参加を呼び掛ける
ことになり、担当窓口を決めた。（なお4月28日現在参加店は52社）

〔第3回実行委員会および第1回全体会議の開催予定について〕

日 時 5月9日 午後2時から第3回実行委員会

〃 午後3時～4時第1回全体会議

場 所 東京ステーションホテル会議室を第一候補とする。

即売関係の計画、全体会議の案内状を今月中（4月末日迄）に発送出来るように作業を進める。

缶 詰 共 同 宣 伝

ベターリビングショーナゴヤ'72に参加

名古屋地区缶詰フェアは前年同様、中部消費者協会、中日新聞社主催の「ベターリビングショーナゴヤ'72」に出展、缶詰の消費PRに努めることになり、次の内容で実施することになった。

日 時 昭和47年5月13日～28日 16日間

（午前10時～午後5時）

場 所 名古屋城前 愛知県産業貿易館

催 事 ベターリビングショーナゴヤ'72

（消費者60万人以上動員の予定）

実施内容 1) 出品小間数2小間（間口6m奥行2m高さ2.7m）

2) 催事企画 Ⅰ) 缶詰の展示

ロ) 期間中マネキンに依る開缶試食宣伝

ハ) 缶詰アンケート調査（1万人対象）

ニ) アンケート記入者に携帯用缶切りを贈り、

抽選で10人に1人の割合いで缶詰1缶

を贈る。

サンケイ缶詰料理教室

〔4月実施状況〕

月日	曜日	天候	時間	会場名	参加人員
4/15	土	雨	PM1:30 ~ 3:30	板橋区勤労福祉会館	110
4/18	火	晴	〃	三菱銀行保谷支店	60
4/19	水	晴	〃	足立区四ツ木渋江東会館	95
4/20	木	曇 のち 雨	〃	横浜白幡公民館	120
4/21	金	晴	〃	桐生市綾物会館	120
4/22	土	晴	〃	高崎市塚沢ビル	100

〔 5 月 実 施 予 定 〕

月 日	時 間	会 場 名	住 所
5/11 (木)	13.30～15.30時	龍王四ツ谷公民館	山梨県中巨摩郡 龍王町四ツ谷
5/12 (金)	〃	都留信用組合 3階大ホール	富士吉田市下吉田町 市役所通り
5/13 (土)	〃	静岡県中央公民館2F	静岡市東草深 3～14
5/18 (木)	〃	中里親和会館	北区中里町186
5/19 (金)	〃	角栄団地内第二公民館	埼玉県入間市下勝沢
5/20 (土)	〃	国民相互銀行常盤台支店	板橋区南常盤台 2～9
5/22 (月)	〃	相生団地集会所	板橋区相生町23

三宅島，八丈島におけるサンケイ缶詰

料理教室 実施状況

サンケイ新聞社主催，東京都農業協同組合中央会後援による缶詰共同宣伝活動の一環として民宿業者を対象に次のように缶詰料理教室を実施した。

月 日	曜日	天候	時 間	会 場 名	参加人員
4/10	月	晴	PM12:00～2:30	三宅島ロッジ	50
4/11	火	晴	PM 3:00～5:00	八丈島大賀郷公民館	110

なお、サンケイ新聞紙上、4月28日、29日の朝刊婦人面にこの模様が掲載された。

農産缶工組とのアスパラ缶懇談会

日 時 昭和47年4月26日

場 所 日本缶詰協会 会議室

出 席 (農産缶工組側)

新海アスパラ。石井健之氏
清水食品。松本政典氏
仁丹食品。品治通雄氏
岩手缶詰。清水二郎氏
西岡敏男氏
クレードル興農。佐藤俊雄氏
日魯漁業。鈴木氏
農産缶工組。山内正雄氏
清水氏

(全缶協側)

サンヨ一堂。中山良助氏
矢口屋商会。萩原弥重氏
三井物産。坂下長作氏
国分。下妻俊和氏
北洋商事。大泉修氏
全缶協。北田久雄氏

☆

☆

4月20日、北海道アスパラガス協会の定時総会に全缶協側より中山副会長

萩原蔬菜副部会長の両名が出席し、問屋サイドから見たアスパラガスの現状とその将来の見通しなどにつき、去る 3月24日付全缶協要望書を中心に説明を行なったが、これに引続き日本農産缶詰工業組合より、さらに全缶協側と例年のような懇談会を開催したいとの要請があり、在京の蔬菜部会員代表6名が出席、生産状況、輸入状況、相場の見通しなど懇談した。なおこの懇談会で農産缶工組側が発表した46年度の生産数量は次の通りである。

	前 年 度	46年度
角1号/1打	39,720%	40,930%
4号/2打	197,888 "	266,106 "
7号/4打	13,451 "	13,241 "
250g/4打	384,447 "	416,159 "
250g/2打	—	2,258 "
200g/4打	—	14,258 "
そ の 他	19,483 "	3,567 "
計	654,989%	756,519%

包 装 問 題 に つ い て

4月18日 日缶協の呼び掛けにより、大手水産、製菓会社、大手問屋、大手バッカー等のブランド所有者および関係団体が集まり、最近問題として提起され、このまま放置しておけば今後より拡大の方向に向うことが懸念される

「進物用缶詰過大包装」について協議を行なった結果、農林省をはじめ関係官庁、百貨店協会、チェーンストア協会等に業界が先手を打って、実情を訴え、可能なことは出来るだけ改善するべく努力したい旨の要望書を提出することになり、日本缶詰協会名で、4月26日、日本百貨店協会及び日本チェーンスト

ア協会に次の内容の文書をもって要望を行なった。

(要 望 書 全 文)

包 装 問 題 に 関 す る 件

毎々業界の発展に関しましては、種々ご高配を賜わりお礼申しあげます
さて、最近都市におけるゴミ処理問題、物価対策の観点から消費者団体
等が中心となってノー包装運動過剰包装追放運動が展開され、関係官庁も
種々検討されておりますが、当協会関係の缶・びん詰については下記のと
おり処理致したくご案内申しあげます。

記

1. 缶詰の販売については、当用買と贈答用に分けられます。
当用買については、一般に店頭で販売する缶・びん詰は、殆んどノー包
装又は紙にくるむ程度で顧客に売渡されている。
2. 贈答用としての缶・びん詰の詰合品については、下記のとおり検討中
であります。
 - (1) 包装材料
 - 1) 従来使われていた発泡スチロール、塩化ビニール、プラスチッ
クなど、合成樹脂系の包装材は使わない方向で努力する。
 - (2) 空間容積
 - 1) 化粧箱の容積に対し、空間容積は、下記のような特殊性がある
 - (イ) 缶・びん詰は、概ね円筒型であるため、四角の化粧箱に詰めた
時は、当然 2 1.5 %の空間ができる。
 - (ロ) 缶の径が異なるため、大・小缶の詰合せの場合は、小缶にある
程度の枕をおく必要がある。

例えばバインアップルに3号缶の径は85mm、もも4号缶は、75mmであり、これを詰合せるときは表面を揃えるためには、4号缶に84.7mmの空間ができる。

㊦ 缶・びん詰は、他の食品に比較して重量が重く、かつ、破損し易いので運搬中の事故を防ぐため最小限度の仲仕切などが必要である。

以上述べました理由により、化粧箱の空間容積を30%以下とすることはとうてい不可能であります。なるべくコンパクトにまとめるべく努力致したいと思います。

なお、包装費についても極力15%以内にきりつめるように努めます。

4月27日には本件について、日本百貨店協会の方針が、次の通り決定し、この文書には、正式に記載されていないが、缶詰のような円筒型のものにあつては、直方体とみなして体積を計算するということであつた。日本チェーンストア協会では包装上の特殊性は了解したが、包装費については函代、詰める手間賃、運搬費を含め、15%以内におさめること。特に店頭にある同種、同ブランドの缶詰を客の求めに応じ、店で詰合せた場合、函代は加算することになっているが、問屋業者より納入された詰合せ品と価格が異なるようなことのないよう、納入者と仕入者はよく連絡をとってほしい。本年の中元期は消費者団体、マスコミともこの点充分関心を払うものと考えられるので注意してほしいとの要望であつた。

日本百貨店協会の方針は次の通り。

包装の適正化、合理化について

昭和47年4月27日

日本百貨店協会

1. 包装に関する基本的な考え方

最近、廃棄物公害、物価問題等の関係から、過剰包装、過大包装が社会問題化しており、これを是正する必要があるが、一方包装を簡略化するあまり、それが不完全にならないよう配慮しなければならない。

そこで、この際、百貨店にとって包装とは何かについて、その目的、使命を改めて考え直す必要がある。

(1) 包装の目的は、いうまでもなく、商品が、生産者から消費者までの経路を完全な姿で流通するために行なうものであるが、その機能、使命については、①商品の内容物の保護・品質保全、②取扱いの利便さ、③包装が商品の一部（顔）として、デザインが適正であり、④さらに価格が妥当であることが要請されているものとする。

(2) 現下の社会的要請にもとづく包装改善の措置は、とりもなおさず、上記のような包装本来の目的、機能等に照らして、包装の適正化、合理化を図ることにほかならないと考える。

しかも、包装の適正化、合理化は、これを推進することによって、流通過程の機械化が進み、省力効果が生かされ、物的流通費用が節約される等、最終的には、消費者利益に寄与するとともに、公共の福祉に適合するものでなければならないものとする。

2. 今後の具体的対策

上記1の基本的な考え方にもとづく今後の具体的対策は、次のとおり

(1) パッケージングの適正化，合理化

- (イ) 化粧箱，容器等の使用に際して，商品の保護・保全，取扱いの便利さ等の必要な限度を越えて，過剰，過大にならないよう，メーカー等の取引先へ協力を求めることとする。

この場合，全商品について一律の基準を設定することは必ずかしいが，原則として，

包装の容器については，商品以外の空間容積が，全体の30%をこえないこと。

包装の費用については，包装費が商品売価の15%をこえないこと。

を目安とする。

ただし，易損品その他特殊な商品については，上記の原則をこえることがあっても止むを得ないが，その場合についても，商品に応じて適正と考えられる限度内にするようつとめる。

- (ロ) 難燃性もしくは燃焼に際して有毒ガスを発する等，廃棄物処理に伴い公害発生のおそれのある包装材料は，なるべく使用しないようメーカー等の取引先へ協力を求めることとする。
- (ハ) 自社開発商品または百貨店自身がパッケージする場合についても上記イおよびロの趣旨によって処理する。

(2) ラッピングの適正化，合理化

- (イ) 包装紙の簡易使用，シールの活用等により，顧客の希望に応じ，または商品によって，簡易な包装を行なうようにつとめること。
- (ロ) なお，贈答品については，その目的に沿うよう適正な包装に充分配慮すること。

製造者の表示に関して厚生省に陳情

製造者の住所・氏名の表示について

厚生省から要望があり、これは業界にとって重大問題であるため、全缶協規格部会、また業界団体、さらには缶詰表示問題連絡協議会で、再三話し合いを行ない、缶詰の特殊性からいって実施は不可能であるとの結論に達し、その替りとして現行の複雑多岐にわたる製造所記号を整理し、1工場1個にすることに方針を決め、4月10日付で厚生省環境衛生局長あて、日缶協、全缶協両会長名をもって陳情書を提出した。その全文は次のとおり、

厚生省環境衛生局長

浦 田 純 一 殿

社団法人 日本缶詰協会

会長 田 上 東 稲

全国缶詰問屋協会

会長 浅 井 二 郎

かん詰容器包装の製造所住所・氏名の表示について

拝啓ますますご清栄のことおよび申しあげます。

平素は私共業界に対し種々ご指導をいただき、ありがたくお礼申しあげます。

さて、かねてから検討方ご指示のありました表記のことについて、当業界関係団体にて種々協議致しました結果、下記の理由により実施はきわめて困難であると思料されます。

つきましては、今後の対策として現行の複雑多岐にわたる製造所記号を

整理し、1工場につき1個に限定することによって、製造所の所在を明確に把握できるよう、万全を期したいと存じますので、事情ご高含の上よろしくご高配を賜わるようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 印刷かんに製造所住所・氏名を表示することの困難な理由

- 1) かん詰の製造は、現在、国内向製品の90%以上が印刷かんを使用しており、かつ、主として季節的に生産される生鮮農水産原料に依存しているため、ブランド所有者(販売業者および販売業をあわせて営む製造業者を含む)は、各製造品目について通常5~10カ所の下請製造業に分散して生産を行なっているのが現状である。

したがって、印刷かんに製造所の住所・氏名を印刷表示することによって、容器の互換性あるいは融通性からくるために原料の限られた出回りシーズンにおける円滑な生産がきわめて困難となる。

- 2) ブランド所有者は製缶会社に対し、各製造所で使用する印刷かんを一括して発注しているが、若し製造所の住所・氏名を印刷表示する場合は、容器の発注のロットが小さくなる。そのために、製缶会社の印刷かん版数が現在の3~5倍に増加することとなり、季節的に集中する。容器の受注に対し、これを消化することは現有製缶能力よりみても不可能であると考えられる。

- 3) 現在、印刷かんのランニング・ストックは、1,500万函に及ぶが、製造所の住所・氏名の表示に切替えた場合は、その2倍量の3,000万函に達するものと推定され、業界が負担すべき金利、倉敷料等は莫大なものとなり、製品コストの大巾な値上げを来たすことになる。

- 4) レベルに切替えた場合は、わが国のような複雑な流通経路によって製品が販売される場合、輸送保管中の汚損、剝離等の事故が多く発生することが予想され、一方、労働力の不足からレベルの貼布作業が困難であると考えられる。
2. 今後の対策について
- 1) 製造所の記号は、1工場につき1個に限定し、届出制度を登録承認制度に切替える。
- 2) 業界団体において、製造所記号のリストを製備し、関係筋に広く周知徹底を図ることによって、製造所の所在を容易に確認できるようにする。

パイナップルかん詰 日本農林規格の告示

パイナップルかん詰の日本農林規格が4月15日付官報第13593号、農林省告示第511号をもって告示され、昭和47年5月15日から施行となる。

その主要な事項を要約すると、次の通りである。

1. 形状およびかん型別規格量

形状の区分	かん型	固型量	内容総量
スライス	1号かん	1.700g	3.015g
ハーフ	2号	525	850
	3号	340	565
	4号	270	425
	5号	180	310

チビット	1号	かん	1.790g	3.015g
	3号	〃	340	565
ピース	1号	〃	1.790	3.015
	3号	〃	340	565
	4号	〃	270	425
	5号	〃	180	310

2. 品質の基準

内容物の品位	合格……平均点3.0点以上，1点の項目がないこと。
糖 度	18度以上（ブリックス浮秤）
糖 液	砂糖又は砂糖とぶとう糖の混合液
食品添加物	化学的合成品を含まないこと。

3. 表示の基準

次の事項を一括して表示する。

必要表示事項	表示規定（事例）
品 名	バインアップル・シラップづけ
形 状	「スライス（輪切）」 「ハーフ（二ツ割）」 「チビット（扇状片）」 「ピース（小切れ）」
原材料名	バインアップル 砂糖 バインアップル果汁
固 形 量	340g（スライス，ハーフにあっては内容個数を示す） ……（8枚入）
内容総量	
製造年月日	略号又は具体的表示のいずれかとし，一括表示外に示すことができる。 〔略号……ふたに略号にて記載〕
製造業者。販売業者の名称。住所	輸入品の場合は輸入業者および住所
原産国名	
使用上の注意	業界で別途とりまとめた文言を表示する。

4. そ の 他

- 1) 文字および枠の色は、背景の色と対照的な色であること。
- 2) 表示の文字の大きさは、8ポイント活字以上の大きさのゴシック書体のこと。
- 3) 一括表示の様式は、たて書きでもさしつかえないこと。

関 係 団 体 報 知

〔 機 構 改 革 お よ び 人 事 異 動 〕

※ 東洋製缶(株) (取締役社長高橋芳郎氏) では、食缶営業部門の本社機構の合理化と拡充を図るため、次のとおり従来の第一営業部を三部に改組し、あわせてこれに伴う人事異動を実施した。

食 缶 営 業 部 門 担 当 役 員	専務取締役	広 田 慎 吾 氏
○ 食 缶 営 業 統 括 部	部 長	広 田 慎 吾 氏 (兼 任 委 嘱)
販 売 管 理 課	課 長	畝 本 健 氏
市 場 開 発 課	課 長	登 坂 幸 作 氏
○ 食 缶 販 売 第 一 部	部 長	中 沢 冲 氏
"	次 長	本 田 三 二 氏
販 売 第 一 課	課 長	安 武 寛 治 氏
販 売 第 二 課	課 長	剛 本 武 利 氏
○ 食 缶 販 売 第 二 部	部 長	小 山 邦 一 氏
"	次 長	田 原 和 治 良 氏

販 売 第 一 課 課 長 田 中 勅 夫 氏

販 売 第 二 課 課 長 安 部 敬 氏

〔 長 野 県 缶 詰 食 品 問 屋 連 盟 定 時 総 会 〕

長野県缶詰食品問屋連盟の第8回定時総会は3月25日開催し、議案審議は
原案通り可決、役員も次のとおり改選され、それぞれ就任した。

また、事務局も㈲三沢商店内に移転した。

会 長 河 西 商 事 ㈱ （松本市）
社 長 河 西 清 之 助 氏

副会長 ㈲三沢商店 （長野市）
社 長 三 沢 辰 二 氏

” ㈲原田商店 （諏訪市）
社 長 原 田 福 太 郎 氏

” 綿藤稲垣食品㈱ （飯田市）
副 社 長 三 浦 利 次 氏

幹 事 ㈲丸善商店 （長野市）
社 長 春 日 善 文 氏

” ㈲北洋商事㈱長野支店 （長野市）
支 店 長 山 崎 明 氏

” ㈲丸正酢徳商店 （小諸市）
社 長 小 山 虎 雄 氏

” ㈲ツタモ北洋 （松本市）
社 長 早 田 茂 一 郎 氏

” 茅野食品㈱ （茅野市）
社 長 高 田 万 司 氏

幹 事 (株) 丸 宮 商 店 (伊那市)
社 長 生 田 尚 氏
〃 (三)長野中央市場南信支社 (飯田市)
支 社 長 高 森 美 津 男 氏
〃 (株)(中)中央青果市場 (飯田市)
社 長 田 中 九 一 氏
監 事 (株) 大 阪 屋 (上伊那)
専 務 長 田 平 八 郎 氏
〃 北洋商専(株)上田営業所 (上田市)
所 長 大 熊 喜 作 氏

〔 定 期 総 会 〕

※ (社)北海道アスパラガス協会の昭和47年度定期総会は、4月20日札幌市定山溪 香取において開催されたが、同協会の要請により、全缶協 中山副会長、蔬菜部会 萩原副部長が傍席し、アスパラガス缶詰の最近の市況説明を行なった。

〔 徳 島 缶 協 会 長 に 角 田 氏 が 就 任 〕

※ 徳島県缶詰協会(徳島県阿南市橘町豊浜12の6)では、3月29日開催の理事會において 内村 明氏の会長辞任に伴い後任会長に 角田 巖氏が選任され就任した。

会 員 消 息

〔社屋移転〕

※ 辰巳食品(株)(取締役社長 杉田数男氏)では、かねてから新社屋を建設中のところ、このほど落成の運びとなり、5月1日から新社屋に移転し、営業開始する。

- 新住所 〒165 東京都中野区江古田2丁目9番14号
- 新電話番号 東京03 (389)4821番(代表)

〔人事異動〕

※ 三菱商事(株)食品第二部長兼食品マーケティング部長 角田 昇氏は、このほど北洋商事(株)専務取締役に就任したので、その後任として 鷲尾 節夫氏が就任した。

〔社名変更〕

※ 湯浅(株)と船橋食品(株)の両社はその組織機能を全面的に統合し、社業の飛躍的発展を期すべく、3月31日付で新しくユアサ・フナシヨク(株)を発足させた。

ユアサ・フナシヨク(株)は、資本金3億円となり、売上高は300億円を予定している。

〔名義変更届〕

※ (株)長野中央市場(長野市若里923番地)の全缶協加入名義人は47年度より下記に変更した。

旧 常務取締役	橋 本 憲 二 氏
新 専務取締役	久 保 田 丈 平 氏

